

高

朋友

1992



東京電機大学高等学校同窓会

《表紙について》

本誌名の「朋友」は、仲の良い友達とか友人という意味を持ち英語での「FOR YOU」……（会員の皆様方のための）という意味を持たせております。これは同窓会幹事会において鷺見篤氏よりご提言いただいたものです。

また、表紙の画は河部貞夫先生作のレリーフ「若者の像」を、本誌のため再度先生にデッサンしていただいたものです。もともになったレリーフは、学園創立60周年記念に合わせて、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれていました。現在では小金井校舎テニスコート脇に移設されております。

今、教育に求められているもの

東京電機大学高等学校校長 宮崎 登
東京電機大学高等学校同窓会名誉会長

卒業生の皆様には、日頃の母校にお寄せ頂いておりますご協力に深く感謝申し上げます。

顧みますと昨年は、小金井新キャンパスに移転開校し、大きな転換をはかった年でもありました。移転開校に当たり、卒業生の皆様に多大なご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

在校生諸君には、この新キャンパスで、人としての基本的な考え方や学習活動に対する新たな意欲をもって人間性豊かに成長してほしいと願っております。

現在、高校進学率95%の豊かな社会の中での高校教育のあり方として求められていることは、多様化、個性化を基調とした創造性の育成であり、また、新しい学力観（思考力や判断力の育成を重視した知識から知恵の教育）への転換であります。これらの行き着く先は、必ずしも明確ではありませんが、経済的豊かさを背景に生まれたこれらの指針がうまく機能するかどうかは、日本の社会が本当の意味で豊かであるかどうかにかかっているように思えます。創造性の育成が教育の課題として取り上げられるようになったのは、決して新しいことではありません。学校教育に位置付けられる創造性は、自己実現の育成を図ることにあり、この事がやがて、社会的、文化的にも価値あるものを生み出す創造性の素地となると考えられます。したがって、個々の生徒が自己充実に向けての過程において、価値ある新しさを自主的、自律的に求めるような指導が大切であります。その中で論理的な思考力、想像力、直観力などの育成を図らなければならないと思います。これらを踏まえて、教育現場においては、自ら学ぶという主体的な学習活動を重視し、思考力、判断力、実践力などを育成する具体的な方策を編み出す必要があります。今後予想される価値観の多様化に対応して、一人ひとりがその生き方を考えていく必要があり、その視点からも創造性の育成が改めて



問われているように思えます。

現今のわが国は、世界でも指折りの高学歴社会となっており、その意味から知的水準は相当に高いと評価されています。しかし、その反面、意外に心は冷たく、「知」が「情」や「意」を押しつぶしている一面もあるように思えます。

他人の苦しみを解しない人間、あるいは他人の不幸や災厄を見て見ぬふりをする人間が多いのも「知」だけが優先して「情」と「意」が伴わないためとも受けとめられます。したがって、「知・情・意」の三つの均衡ある作用を回復するように努めることも、現在、教育に求められている緊急な課題であります。

高校生時代というのは、将来人間として、心身の調和のとれた人格を養う大切な時期であります。心情豊かな情緒を養う年頃でもあり、また、集団活動や体験学習を通じて自らの生き方を内省したりすることの必要な時期でもあります。つまり、心を豊かに広げていくべき時だけに、「知・情・意」をバランスよく学べるように計画し、それを実践することが求められています。

今後、これらの諸課題に対応しながら、教育実践を展開しなければならないと考えております。卒業生の皆様方の益々のご活躍と同窓会のご発展を祈念いたしますと共に、母校へのご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

目次

今、教育に求められているもの……………	1
新たな同窓会活動に向けて……………	2
特集 文化祭……………	3
「神田錦町」思い出話……………	7
退職教員近況……………	8
平成4年度クラス会報告……………	10
クラブ紹介（ラグビー部）……………	12
〔名簿〕歴任教員……………	14
現教職員……………	16
卒業生数一覧……………	19
活動報告……………	22
クラス委員一覧……………	24
会則……………	31

新たな同窓会活動に向けて

東京電機大学高等学校同窓会会長

大塚 忠 克

同窓会会員の皆様、教職員の皆様には、日頃より同窓会活動に深いご理解とご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

高等学校は先生方のご努力により、予定どおり平成4年4月1日から新築となった小金井キャンパスに於いて授業を開始いたしました。今までの『電高』というイメージはなく、新しい校舎での、新しい時代に対応した学校教育が行われることになりました。

同窓会も、6月20日に新キャンパスになって初めての総会を開催し、新たな同窓会活動へ向け、会則の一部改正、同窓会役員の改選と活動体制づくりを行いました。今までの都心にあった高等学校とは異なり、小金井キャンパスは遠い所との感があることは否めません。

私たち同窓会役員は、今後の活動と高等学校との連絡体制、事業の運営をどのようにするのか悩むところですが、学内の先生方、職員の皆様、同窓会役員の協力を得て新たな同窓会活動に向けて『1』からつくるつもりで取り組んでいるところです。

折しも、上部団体であります電機大学校友会では、将来計画特別委員会を発足させ校友会の将来に渡っての運営等について検討をしています。

また、校友会と同窓会のありかた等も見直しとともに検討が加えられています。今のところ高等学校同窓会には、大幅な見直しはされていませんが、いずれにしても校友会、同窓会とも将来の活動に向けての検討が必要になっています。

その中であって、今後、高等学校同窓会活動を



どの様にするのか、まさに新たな同窓会活動が求められています。今後は、着実に同窓会会員は普通科卒業の会員と、大学卒業の同窓会会員の2つの資格を持つ会員が増えて来ます。そのため、高等学校同窓会は特色のある活動と、若い会員が参加した活動をつくって行かなければなりません。

高校同窓会は活動を通じ、卒業生が気軽に母校に訪れられるようにしていくことが大切であると思います。そのためには、同窓会は今後ともこの小金井キャンパスを活動の場としていかなければなりません。同窓会の発展は、母校の発展でもあります。同窓会活動には、多数の同窓生が参加して母校を支援して頂きたいと願う次第です。

今後共、同窓会は母校の発展のため微力ながらお手伝いをしていくつもりでおりますので、同窓生皆様のご支援、ご協力をお願いする次第です。

文化祭

“新生”になった文化祭、在校生・卒業生・教員それぞれの目から見てももらいました。

T D U 武蔵野祭を振り返ってみて

3 D、春 原 利 昭

長年親しまれてきた「電高祭」も今年から「T D U 武蔵野祭」と改称し、テーマもそれにふさわしく“新生”とし、文字通り新しく生まれ変わった「T D U 武蔵野祭」いかがでしたでしょうか？

今年は昨年委員の引き継ぎをしていなかったこともあり、ほとんど何も分からない状態で6月半ばに活動を開始。又、プログラム作成は6月も終わりになってから、という非常に遅れたスタートになってしまいました。そのせいでプログラムはミスだらけになり、各参加部門には締め切りを早くしたりと、各方面に大変迷惑をかけてしまいました。

さて、今年からこの武蔵野の地に移転し、“新生”というテーマを掲げておりましたが、その他に学校全体での文化祭を目指し、クラス参加を呼びかけましたが、呼びかけが遅かったこともあ

近隣の方々の評判も大変良かったようで、お手紙までいただき、「9月になってから毎日遅くまで残っていたけど、やっていて良かったなぁ」と思いました。



「考古学部」

又、今年は校庭や廊下など、大変広くなったにも関わらず、広くなったスペースを使いこなす事が出来なくて残念でした。来年は今年の反省を基に、スペースの有効活用、クラス参加など、新3年生が頑張って、今年以上の文化祭にしてくれる事を期待しています。そういった意味を込めて、各先生方、各参加部門の今年以上の御指導、御協力をお願いします。

なお、最後になりましたが、御協力下さった先生方、OBの方々、車の整理や見回りなど文化祭実行委員を助けてくれた生徒会役員、お化け屋敷の後片付けなどを手伝ってくれたブラスバンド部、文化祭PRなどに協力してくれたサッカー部など、この「T D U 武蔵野祭」に携わり、協力をして下さった方々に大変厚くお礼申し上げます。有難うございました。



「物理同好会」

り、残念ながら今年はクラス参加がありませんでした。しかし、PTA、教職員、バンドを含めた31の各参加部門は、非常に短い準備期間にも関わらず、今まで以上に多彩に、あつ内容の濃いものに仕上がりと、一斉に開場できた事を大変うれしく思います。その各部門の努力の甲斐あってか、

第一回T D U武蔵野祭について

3D: 松本晃英

今回の文化祭は学校が移転した事を機会に、名称も新しく改名してT D U武蔵野祭となりました。僕は、電高祭時代から毎年お化け屋敷を作っている文化祭実行委員会のお化け部門の部門長をやっていたのですが、今回の文化祭では、校舎も新しくなったので、まず教室が使えなくなってしまったのです。そして色々先生方と話し合った結果、体育館の小ホールの方を床にキズを付けないようにすれば使用して良いということになったのです。しかし、今まで教室を使用していたので、去年までと同じ形式がとれなくなってしまい苦労しました。去年までは、机を三段に重ねて、その

をレンタルしようと話していたのですが、それでは予算がかかりすぎてしまうという事で、副部門長の鯨本君が今回使用した組立式の迷路のアイデアを出してくれたのです。そうしてやっと作業に取りかかったのが9月の初めごろだったので、みんな夜遅くまでかかって作業をしていました。



演習御礼！小石川での「お化け屋敷」

そして何とか文化祭の三日ぐらい前に迷路のパーツの部分が出来上がり、こんどは仕掛の方を作ろうと思いマネキンの数を確かめる為に取りに行ったところ、なんと十体ぐらいあったマネキンが一体もなかったのです。これはショックでした。先生の話によると、「多分引っ越しの時に運送会社の人に捨てられてしまったのだろう。」との事でした。そして先生が慌てていろんなデパートに電話してくれたおかげで、何とか三体購入する事ができ、やっと一日前ぐらいに仕掛などがほとんど完成しました。

そしてT D U武蔵野祭当日は去年と比べたら相当数は少ないですが、結構お化け屋敷に入りに来てくれました。そうして今年のT D U武蔵野祭は終わりましたが、来年、再来年もこのお化け屋敷を続けていって、東京電機大学高等学校のT D U武蔵野祭のお化け屋敷はすごいと、みんなから言われるようになってほしいと思っています。

The 24th Denko Festival

Theme
"Freedom"

Date
'86 10/11.12



第24回電高祭ポスター

三段に重ねた机を何個も重ねて迷路を作っていたのですが、今年は教室ではなくなった上に、机も新しくなったので使用できないとの事で、今までと違った方式で迷路を作らなくてはならないようになってしまったのです。そうして最初のうちは、先生と話し合って工事現場の土台の鉄パイプ

電高祭の思い出と武蔵野祭

昭和58年度D:卒 大曾根 康史

今回より高等学校の移転に伴い、電高祭が武蔵野祭と名前を変えました。私の在学時は第19回～第21回の電高祭にあたり、私は第21回の時の実行委員長を務めておりました。ここでは当時のエピソードを書かせて頂くとともに、今後の文化祭について思うことを書かせて頂きます。

まず、電高祭名物と言いますと武蔵野祭でも存続されたお化け屋敷です。小石川時代には教室内に机を三段ぐらい積み上げベニヤを張って迷路を作り、窓には墨汁で黒く塗った新聞紙を貼り付けて暗闇を作っていました。私も1年生の時はお化け部門に属しており、予備を含めて数百枚近くにわたる新聞紙の墨塗りに嫌気がさしたものです。さらに設営時には先輩方から、「針の穴ほどの隙間による外光」にひどく怒られた事を覚えております。当時、他校の文化祭でもお化け屋敷は見かけましたが、うちの高校ほど完全に暗闇を作っていた所は無かったと記憶しておりますし、それだけに心底怖がってもらえ、名物となったのだと思います。また周辺には多くの高校が在りましたが、丁度、実行委員長を務めた年には、女子高生の来校が非常に多く（だ



楽しかったフォークダンス

いぶ、雑誌などに宣伝活動をしました（・・・）、本祭中は多くの先生方が見回りと称して（？）いつもは居ない女子高生を眺めていた顔が今でも忘れられません。電高祭閉祭後には生活指導部（当時は生徒課）の先生に「うちの高校は共学、あるいは女子高だったかな・・・」と言わせる程で、特に吉田宇一校長先生が朝礼時に同様の事をおっしゃ

れた時の、生徒一同の爆笑と喝采が入り乱れた事がとても印象に残っております。

さて紙面が限られていますので、話題を切り替えさせていただきますが、我が校の場合は文化祭実行

委員会の形態や、更には文化祭への生徒の参加形態が大学のそれに類似点が多く、他校、特に公立高校と大きく異なっているために、非常に独特の雰囲気があったと思

います。それは電高祭が元々は電機展と言って電機学校と大学と高校の合同の文化祭から始まった殊に由来するのではないのでしょうか。昨今のパソコン等の普及に見られます様に、工業技術的な物が特殊ではなく殆ど当たり前前に普及して来ています。現在、私は大学院に在学中ですが、大学の文化祭を見ても、理工系と文系の双方が融合してしまっており、表面上は違いが無い時代となっています。これは高校レベルでも言えることで、特に高校移転により武蔵野の地域、あるいは周辺の方々にとってはまだまだ新参者ですから、改めて電機展の原点に立ち帰り、文化祭を見るべきであると考えられるでしょう。

先程も述べました様に、それは何かとは簡単に言い得ないものですが、在校生、卒業生、そして現在生徒の指導に当たっている先生方を含めて共通の事だと思います。文化祭はその学校の唯一無二の対外的な素顔でありますので、今後、武蔵野祭が、また高校が新しい個性のある顔を持ち、益々発展することを願っております。

これからの文化祭

支 那 財 曾 大 辛 口 動 事 8 日 開 演

平成4年度顧問 生 熊 勝 彦
(現高等学校教諭)

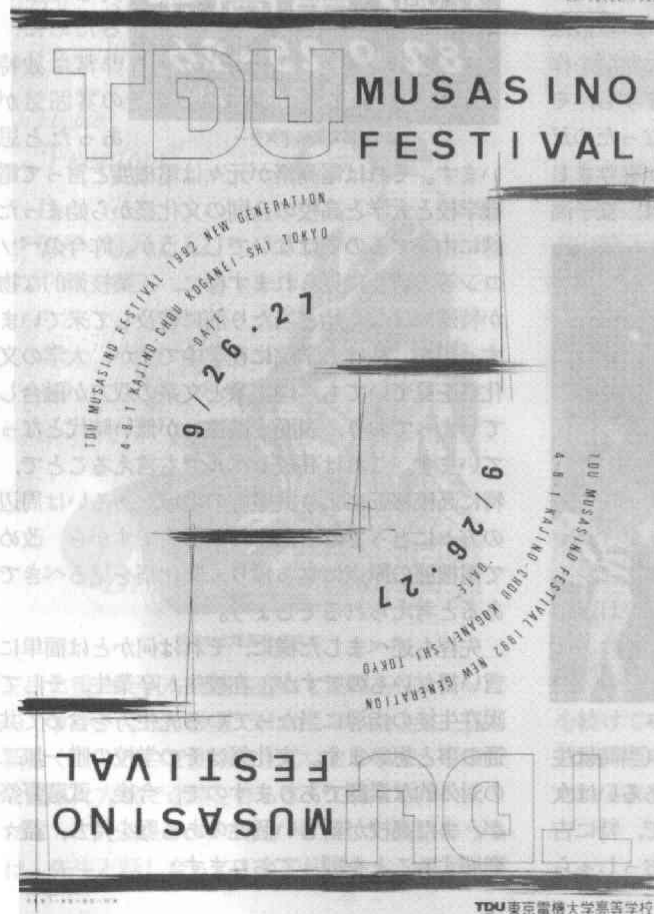
今年の文化祭は、小金井移転を機に長年親しまれてきた『電高祭』より『TDU武蔵野祭』と改名し、9月26・27日の両日にわたり実施され



「七宝焼コーナー」



ピカピカパッチ製作コーナー



方々に参観いただき、盛況のうちに終了いたしました。

新校舎は小石川の倍近くの広さがあるためか、従来のようなにぎやかさは感じられませんでした。各部門とも趣向を凝らした展示・実演であり、好評を得ておりました。例年人気のある、ピカピカパッチや七宝焼などの手作りコーナーでは、用意した材料が不足するほどでした。また、ミニソーラーカー走行やラジコンカーレース、各部門の活動内容を各教室へ実況中継するなど、新しい企画もあり、楽しませてくれました。

今年はクラス参加がありませんでしたが、今後は、全生徒が参加した文化祭になるよう、計画を進めて行かなければならないと思います。

来年は今年の反省を生かし、より充実した文化祭になるよう、生徒に期待しますので、是非、多数の方々のご参観をお願いいたします。

「神田錦町」思い出話

柴田売店 柴 田 桂太郎

小石川から豪華な小金井の新校舎に大移動をしてから、早くも一年目を迎えるとしております。柴田売店も学校のお伴をして移ってまいりました。OBの皆様ご来校の時は是非お立ち寄り下さい。

此の度、同窓会誌に何か書いて欲しいとのご依頼、平素筆を持たない私は大いに困りましたが、折角のお話なので、思いついたままの雑文を書いてみようと思います。老輩の昔話とご笑覧下さい。

関東大震災の直後から私の父は、神田錦町三丁目の電機学校旧校舎（現在五号館）の隣で洋服商を営んでおりましたが、学校に近いため学生服の注文を頂いておりました。或る日、父が学校から幅20センチ、長さ80センチ位の黒いウルシ塗に金文字で電機学校公認指定と彫った立派な看板を頂いて来ました。これが正式に学校から認めて頂いた始まりなので、約七十年の昔の出来事です。その後、父に連れられて創立者の扇本先生のお宅へお伺った事があります。何しろ小学校低学年でしたので、確かな記憶はありませんが、庭の広いお邸で、先生はその頃すでに相当な高齢だったと思いますが、穏やかな中に子供心にも偉い方なんだなと思った記憶があります。

それはさておきまして、今この様な立派な校舎で、伸び伸びと毎日学んでいる生徒さんを見ていますと、つつい昔の電機学校を思い出してしまいます。

入学試験も年齢の規制もなく入学出来て、新しい電気工学を学べる学校として多く学生さんが集まり、それは盛んなものでした。今と違って冷暖房等ない教室に寿司詰めで、熱気ムンムンする中で若い人、年配の人が入り交じって熱心に勉強をしていました。その後、今の本館に移り、益々盛大となり、夜間部が終わると神田駅方面とお茶の水駅方面の道路は電機学校の学生の長蛇の列が続

いたものです。恐らくこの中には高校OBのお父様や今の在校生のおじい様もおられたのではないのでしょうか。

此の様な輝かしい足跡をステップに時の流れと共に、今の立派な学園に発展して来たわけですが、昔を知っている私としては、全く今昔の念を禁じ得ません。

終わりに余談を一つ。昭和初期電機学校に相撲部がありました。三丁目の旧校舎の裏庭に土俵があって、夜おそくまで立派な関取が若い力士を二、三名連れて来て指導をしていたようです。その頃は国技館年一回で学生相撲大会がありましたが、当時は大学相撲部に交じって電機学校相撲部も出場しておりました。私も国技館へ応援に行った事があります。

「電機一万校友のためならどんな苦勞もいとやせぬ云々」と言う応援歌を怒鳴って応援団が一生懸命応援していたのを憶えております。こんな事も懐かしい思い出の一つです。高校の同窓会誌に電機学校の事ばかりを取りとめもなく書いてしまって本当にお恥ずかしい事ですがお許し下さい。



退職後のことなど

元数学科教諭
平成4年3月退職

杉野良知

昔、小学校で「綴り方」の時間に自由題ということで作文を書かされたことがあった。その時、何をどう書いてよいのか分からなくて大変困ったが、今もその時と同じ気持ちで書き始めています。

三月末に四十六年間お世話になった学校を退職して、もう八ヶ月以上経ってしまいました。退職後老朽化した家の建て替えを始め、八月末に一応完成しました。この間、二回引っ越しをしたわけですが、そのたびに卒業生の方々に手伝っていただき大変助かりました。

学校も小金井に移転して益々活気を帯びていることと思います。新校舎へは三回ほど訪れたのですが、立派な設備が整っていて驚きました。移転がもう少し早ければ私も小金井校舎で授業をすることができたのにと、残念に思います。

私が最後に受け持ったのは、普通科の一年生と三年生の授業でした。その折り一緒に勉強した皆さんは、今どうしているだろうかなど、時折思い出します。

武蔵野祭の折りには、是非参観したいと日頃思っていたのですが、所用のため行けませんでした。送っていただいた「いなずま」を読んで大変盛況だったことを知り喜んでます。来年は参観させていただきたいと思っています。

今年は卒業生の同級会に二回出席しました。六月に三十七年定時制電力課程卒業生の会、七月に三十四年全日制電力課程卒業生の会がありまし



た。

皆さん年配になられて、それぞれの職場で主だった役目を果たされているようで頼もしい限りです。また、会には同じ年に卒業した他のクラスの皆さんなども何人か参加され、大変愉快に過ごしました。

十二月に入って平成五年度の高校入試や大学入試に関する新聞記事が眼につくようになりました。埼玉県では、業者テストの偏差値を提示しない申し合わせをしたとか、今年は入試センター試験の志願者数が共通一次試験を含めて、過去最高になったとか……。こんな記事を見るたびに、高校入試や大学進学のこと御苦労されている先生方のことが思い出されます。

お陰様で私はいま、健康状態は良好です。夜は十一時頃寝て、朝は八時頃起きます。本は余り読んでいませんが、家の建て替えのことも一段落したことですし、来年からはもっと本も読み、運動もして元気で過ごしたいと考えています。

東京を離れて、今思うこと

元数学科教諭
平成4年3月退職

石松栄一郎

十二月中旬、年の瀬も迫り、慌ただしい毎日が続いています。思えばそちらを離れ、故郷の九州に戻ったのは、まだたったの8ヶ月前のこと。

今までは新しい職場に慣れるため、地域の人達に溶け込むため、一日一日が大切な時間だったように思えます。今回朋友に掲載して頂けることになり、あらためてこの一年間を振り返ることができて、感謝しております。

勤めている学校は、私立文科系大学の付属高校なので、雰囲気もよく似ていて、明るく楽しい職場だと感じております。こちらでは一年の担任と卓球部の部長、教務時間割係の校務分掌を受け持たせて頂いていますが、少しずつ異なる所があり、戸惑いながら、また新鮮な気持ちで仕事をしています。時間割変更は、その日のうちに欠勤者や出張者等の処理を行い、授業を空けることなくコマを動かさなければならぬため、毎日行われる職員朝礼の前後では、職員室の中を飛び回っていることが幾度もあります。いろいろな先生方の授業を変更するため、知らないうちに全教員の顔と名前を覚え、会話する機会を多く持つことができ、スムーズに溶け込んでいけたのではないかと思います。また、右も左も分からないうちから担任になってしまったので、我がクラスの生徒達は様々な場面迷惑を蒙っているのだと思いますが、回りの先生方の援助と生徒達の励ましによって、何とか頑張っています。

時折、「いなずま」が郵送されてきますが、その記事を読んでいくうちに、「新しい校舎はどんな感じだろう」「小金井での反響はどうだろう」とボンヤリ考えてしまう事があります。数年前から先生方と会議を重ねて築いていった学校が、現実に今あるのだと思うと、何か喜びと後髪をひかれる思いとが交錯して、複雑な心境になる

のですが、先の文化祭特集記事の中で、地元の方からの手紙に目を通したとき、その気持ちが一遍に吹き飛んでしまいました。快く受け入れられていることを知る事ができ、とても嬉しく思っています。



現在、勤めている学校です

ます。

昨年夫婦で交通事故にあって治療を続けて参りましたが、九月に妻の方も治癒しまして、今では二人して旅行に行くやら、テニスクールに通うやらしており、休みを見つけてはガイドブックに目を転じて、遊びの計画を立てています。それと時を同じくして、妊娠という吉報が我が家にも回ってきました。最近、妻はつわりに悩まされているのですが、私はただ見守ってやることしかできなく、育まれている生命を超音波の写真で確認するだけです。これから二人して、この地で頑張り、明るい家庭を築いていこうと話合っています。

最後になりましたが、教職員・卒業生の方々、在職中は大変お世話になりました。どうも有難うございました。

皆様方より一層のご活躍を祈り申し上げます。また、TDU HIGH SCHOOLがますます発展しますよう、陰ながら念じております。

昭和43年度電子科2組卒クラス会

池田 康雄

昭和44年、見崎先生が担任となられて初の卒業生となった我々のクラスは、卒業後、秋葉原駅の近くの近鉄飯店で謝恩会を行った以後は、そのうちクラス会をやるという声も仲々実行されず、いつの間にか卒業以来23年という年月が過ぎてしまった。

今年になり、我々が学んだ小石川の校舎が4月より小金井市に移転になることを聞き、なぜ急に高校時代がなつかしく思い出され、思い切って卒業後初のクラス会を開催しようと、まずは連絡の取れる数名に声をかけ、7月12日に会うことになった。そこでこのメンバーが今回の幹事となることを決め、秋に開催の予定で具体的な準備に取りかかったが、この時点ではクラス64名中20名程の消息しか分かっておらず、残り40数名の消息を手分けして探し出すことから始まった。こうして最後は51名に連絡が取れ、日程も10月3日、土曜日、午後7時と決まった。

当日は、恩師見崎先生にもご出席頂き、会場となった神楽坂の鳥茶屋に32名の懐かしいクラスメートが集うことになった。

卒業後、それぞれの道を進み、この23年間、オイルショックや円高不況も何とか乗り越えてき

た団塊世代の我々もすでに40代に入り、今や社会の中枢としてそれぞれが各々の分野で活躍している。風貌もそれなりに変わり、かなり貫禄のついているやつもいる。そんなメンバーが定刻に合わせて一人一人と会場に顔を出すたびに、なつかしさのあまり歓声が沸き上がる程であった。

記念品の贈呈、そして一人一人の挨拶のあと、互いに高校時代の思い出話や近況などが飛び交い、雰囲気も大いに盛り上がった中で予定の時間もあっという間に過ぎてしまった。

言うまでもなく、これを機に是非回を重ねていきたいというのが全員の要望であった。

最後に、今回の開催に当たり校友会よりお祝いを頂戴し大変にありがとうございました。



昭和59年度卒業生による合同クラス会

卒 京 極 政 宏

ある日の出来事。

A: よう！ ひさしぶりじゃん！ 元気？

B: おお！ Aじゃねえか！！ おれは元気だぜ！！

A: 電高を卒業してからもう7年だぜ。みんなどうしてるかな？ 会ってないからなあ

B: そんなじゃあ、同窓会でもして騒ぐか？

A: そうだな。どうせやるならみんな集めたいな！

B: うん、今年で小石川校舎も取り壊しになっちゃうし、みんなの顔も見たいしな。

というわけで、昭和59年度卒業生による同窓会が、去る、平成4年6月27日（土）、新宿三井ビル54階“メヌエット”において開催されま

した。

同窓生も母校を卒業して7年余り、既にその多くが社会人であり、皆忙しい貴重な時間をお借りしての同窓会でした。そして、当時の担任だった山田宏明先生、人見芳行先生、林幸男先生、山崎晴康先生を中心に44名もの同窓生に出席していただきました。

昭和59年度卒業生は丙午の学年であり、卒業生全員で229名と、前後の学年に比べて同窓生数が少なく、そのため、同窓生の団結力も比較的低かったように思います。

出席した同窓生には、卒業してからの年月を感じさせない友人をはじめ、“おれがわかるか！”という誰も思い出すことができないほど大変身

してしまった人、すっかり“パパ”となってしまう辺りをアットホームにしてしまう人、人生の修羅場をくぐり抜けてしまった人、もしかしたら女の子になってしまったのと思いたくなるような人、思わず営業をしてしまう人など、皆が昔に立ち返り、思い出話に花を咲かせることができました。

新宿から見る東京の夜景をバックに、いつ果てることのない歓談を通して、より同窓生の絆が深まったものと思います。

最後に、林幸男先生のお話をいただき、出席した同窓生一同、次回の参集を約束し散会しました。

なお、本同窓会を催すに当たり、東京電機大学同窓会、東京電機大学高等学校より多大なお祝いを頂きまして、誠にありがとうございました。同窓生一同に代わりまして御礼申し上げます。さらに、本同窓会開催に当たり、山田宏明先生をはじめ、お力添えを頂きました幹事の方々にこの場をお借りし、深く感謝の意を表します。

平成3・4年度クラス会開催報告

(平成4年11月30日現在)

(開催日)	(開催クラス)	4.	3.	7	52年普通科4組
3.	4.	2			41年普通科1組
	13				平成4年電子科1組
	20				平成3年普通科6組
5.	19				平成2年普通科7組
	25				29年定時制電気科電気機器課程
	25				26年定時制電気科電気通信課程
	26				平成3年電子科2組
6.	6				44年機械科
	8				27年定時制電気機器課程
	14				32年電気通信課程2組
	22				34年電気通信課程
	29				42年電気科3組
8.	3				36年定時制電気通信課程
	3				37年定時制電気科電力課程・電気機器課程合同
	6				60年普通科1～5組
9.	1				平成3年普通科3組
	1				34年電気科電力課程1組
	7				27年普通科
	7				27年電気科電気機器課程2組
21	1				27年電気科電力課程3組
10.	5				41年電気科電力課程2組
	6				35年電気科電気計測課程
11.	2				27
12.	5				57年電子科1組
	7				44年電子科2組
	7				34年電気科電力課程2組
	8				35年普通科1組
	9				26年電気科電力課程1組
4.	1.	15			32年電気科電力課程1組
	25				一工20年第二本科電気科
	2.	27			26年電気科電気通信課程
	3.	7			一工23年第一本科電気科
					制24年機械科合同

ラグビーフットボール部

現在のラグビー部

部長 2D 奈良 崇 文

わがラグビー部は、河野先生、斉藤先生、五十木先生のもと、2年生12名、1年生6名の合計18名で頑張っています。

成績の方は、だいぶ波がありますが、このごろめきめき実力をつけてきて、これからといったチームです。

グラウンドもできて、練習場所には困りませんが、18名という人数が少ないのが悩みの種です。

以前は人数が多くてグラウンドがないといった状況でしたが、今年はグラウンドはあっても、人数が少なく、なかなかうまくいきません。

そんな状況ですが、みんな一生懸命に頑張っています。

そんなこともあって練習が不十分で試合に臨んだ時でも練習以上の成果が得られることもありました。

前置きは長くなりましたが、部員の紹介をしていきたいと思います。

副部長の倉野はちょっと怠け者ですがラグビーセンスは抜群です。マネージャー兼プレーヤーの野坂はちょっと子供っぽいですが、“つっちー”こと土屋は寡黙な男です。“しゃーくら”こと西倉は1年の内200日ぐらいは風邪をひいていま



す。“パパ”こと中村はパワーと食欲があります。“ヒロシ”こと高本は名フランカーです。

“えのも”こと榎本はパソコン少年です。“ぜんきち”こと善生はなかなか努力家です。“さんきち”こと佐野はダジャレが得意です。“まっつ”こと松沢は有名人です。“上っち”こと上田は俊足No.1。1年生の堀田はロックとして頑張っています。野球から転向した広瀬はなかなか頑張っています。エステに通っているといううわさの鈴木。林は最近ちょっと休みがち。

フルバックの町田は目が悪いのがちょっと問題あり。新しく入った細野はなかなか頑張り屋。そしてこの個性豊かなチームをまとめる(?)部長の奈良。

本当に個性豊かなチームですが、今は新人大会に向けてみんな気合いを入れて練習しています。

公式戦ではあまり成績が良くないので、今回はと、みんな気合いを入れて頑張っています。

こんなラグビー部に入部したい人、入部してみようかなと思う人。又、痛いんじゃないかと思ってしぶっている人も、だまされたと思って入ってみればラグビーの良さ、魅力が分かります。

又、声援をおくりたい人など、どんどん来て下さい。



平成3年度夏合宿、練習前宿舎にて

ラグビー部のOBとして

平成3年度E卒 森 山 栄一郎

私は高等学校入学以来、今年でラグビー歴4年ということになりますが、この4年間でラグビーによって学んだことが数多くあります。

一般的にラグビーは「危険」で「きつい」スポーツであり、泥だらけになる「汚い」スポーツでもあります。そのため多くの人には、体の大きい方が強いとか、キックのうまい方が勝つなどと思われています。もちろん、それらも必要ですが、だからといって「チビだから」とか「運動神経がないから」といって試合で活躍できないということはないのです。

体が小さかったり、運動神経がないと思っている人でも、気力、キック、タックル、ダッシュ、持久力など一つでも人より上回れる「根性」をチームという「枠」にピタリとあてはめるのがラグビーにとって必要なのです。このように「個性」を引き出す「枠」を作ることこそこれからの人生にも大切なことだと思います。

また、ご存じの通りラグビーには「one for all all for one」という名文句があります、これは1チーム15人という球技中最も多い人数で試合をするため、一人一人がチームのために犠牲になろうとする精神（one for all）と、各選手の弱点をみんなでカバーしようとする精神（all for one）から成っており、この2つの精神により、1+1が3にも5にもなるわけです。

これらの考えに加え、「根性」、「努力」など今では死語になりつつある語を体験できるのもラグビーの魅力です。

現在、ラグビー部は18人と人数が少ないため、生徒達の一人でも多くの人にこの考え、精神を体験してもらい、その魅力を知ってもらいたいと思います。そして顧問の先生方も大変でしょうが、ラグビー部のより一層の飛躍をお願いしたいと思います。



平成3年度夏合宿最終日、ダボスの山にて

学校・学科・年次別卒業生数一覧

卒業 年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計
	第1本科		第2本科	併設 中学	第1本科		第2本科	併設 中学	電機第一 工業学校	電機第二 工業学校	
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	機械科				
	E	M	E		E	M	M				
S 17			89						89		89
18	51		85						136		136
19											
20	101		91						192		192
21	58		48						106		106
22			100		132	50			100	182	282
23	53		106	161	78	26	8	243	320	355	675
24	117	26	65	359	190	46			567	236	803
合計	380	26	584	520	400	122	8	243	1510	773	2283

卒業 年次	全 日 制									定 時 制						小 計		合 計
	電 気 科									電 気 科	機 械 科	電 気 科						
	電力 課程				電気機器 課程		電気通信 課程		電気計測 課程			電力課程		電気機器 課程	電気通信 課程			
																全 日 制	定 時 制	
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I	E	M	E ₁	E ₂	M	C			
S 24										94	10						104	104
25	54	52			64		39					42	44			209	86	295
26	48	48	51	49	52		45					49	47	27	60	293	183	476
27	51	50	50		46	43	53					40	46	50	37	293	173	466
28	56	57			51		50					53		38	64	214	155	369
29	50	37			62		55		29			49		41	39	233	129	362
30	55	53			36	44	54		38			55		30	40	280	125	405
31	55	49			59		58	56	33			50		28	57	310	135	445
32	52	54			49		59	60	38			73		41	51	312	165	477
33	56	59			55		63	63	48			55		36	64	344	155	499
34	61	66			62		51	54	60			49		41	44	354	134	488
35	56	59			52		60	65	56			59		48	54	348	161	509
36	62				55		61	60	52			67		51	60	290	178	468
37	62				64		61	64	66			73		65	65	317	203	520
38	58	61			67		63		60			70		57	59	309	186	495
39	60				49		56	53	54			62		53	55	272	170	442
40	65				65		63	67	57			51		35	58	317	144	461
41												47	47		52		146	146
合 計	1696				975		1433		591	94	10	1128		641	859	4695	2732	7427

卒 業 年 次	全 日 制									定 時 制			小 計		合 計
	電 気 科			電子科		機械科		工業 計測 科	電 子 機械科	電 気 科		電 子 科	全日制	定時制	
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	M	E ₁	E ₂	D			
S 41	68	66		69	69	54		62					388		388
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128	519
43	56	54		58	54	54		55		48	41	37	331	126	457
44	61	64		67	64	68		56		64		64	380	128	508
45	61	60		51	55	48	49			47		21	324	68	392
46	66	63		62	64	55	55			47		20	365	67	432
47	56	55		58	59	58	59						345		345
48	50	51		52	52	53	53						311		311
49	56	57		51	51	52	49						316		316
50	55	52		61	62	49							279		279
51	52	50		43	50	48							243		243
52	59	59		58	56	50							282		282
53	60	56		59	66	56							297		297
54	51	55		49	51	52							258		258
55	50	47		56	55	43							251		251
56	49	50		49	51	51							250		250
57	54	54		57	55	48							268		268
58	50	47		51	54	53							255		255
59	51	53		54	51	50							259		259
60	50	50		43	43	50							236		236
61	54	52		50	53	54							263		263
62	49	52		54	51	46							252		252
63	49	49		47	48				53				246		246
H 1	54	52		51	51				50				258		258
2	52	51		49	53				53				258		258
3	45	49		51	51				54				250		250
4	51	52		51	53				53				260		260
合 計	2969			2946		1409		229	263	328		189	7816	517	8333

卒 業 年 次	全 日 制					合 計
	普 通 科					
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	
S 27	37					37
28	30					30
29	39					39
30	47					47
31	58					58
32	42					42
33	50					50
34	50					50
35	60	55				115
36	55	54				109
37	55	53				108
38	51	55				106
39	59	56				115
40	63	64	60			187
41	63	64	63	65		255
42	60	63	64	62		249
43	58	56	58	58		230
44	60	53	53	51		217
45	55	57	57	57		226
46	54	51	54	57	54	270
47	49	49	50	49		197
48	54	54	54	53		215
49	52	52	55	48		207
50	51	50	51	51	50	253
51	53	53	54	52	42	254
52	52	54	53	51	52	262
53	52	51	53	52	52	260
54	55	55	56	56	49	271
55	54	53	55	54	50	266
56	47	49	49	49	47	241
57	53	51	54	52	48	258
58	51	50	51	51	52	255
59	50	49	49	50	51	249
60	47	46	46	45	43	227

卒 業 年 次	全 日 制								合 計
	普 通 科								
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇	L ₈	
S 61	46	47	45	47	47	46			278
62	54	53	54	54	52				267
63	47	46	47	47	47	48			282
H 1	28	47	46	47	46	47			261
2	30	49	49	47	47	47	25		295
3	26	49	49	49	45	45			267
4	24	43	41	43	41	41	24	16	273
合 計	2021	1731	1470	1397	920	274	49	16	7878

同窓会の

平成3年度事業 報告

事業種別	内 容	日 時
総 会	於：小石川校舎実演室 1. 平成2年度事業報告 決算報告、 会計監査報告の承認 2. 平成3年度事業計画案、予算案 の審議及び承認 3. 役員改選 4. その他 小金井校舎建設募金の協力要請	平成3年 6月15日 (土)
同窓会誌の 発行	同窓会誌「朋友」1991年版の発行 クラス委員名簿改訂版(13)の発行	平成3年度 発行
クラス委員 の委嘱	クラス委員に委嘱状と承諾書の発 送・回収	平成3年5月
教職員・ク ラス委員懇 談会	教職員・クラス委員と懇談 同窓会・高等学校後援会・校友会 への支援要請 小金井校舎建設募金の協力要請	平成3年 9月21日
新会員 説明会	於：小石川校舎体育館 新会員に高等学校同窓会活動説明	終業式場にて 平成4年 2月29日
新クラス 委員懇談会	新クラス委員となる人と幹事の懇 談会。同窓会活動への協力要請	終業式後
入学記念品 の贈呈	入学記念品として、ネクタイピン	平成3年4月 入学式
卒業記念品 の贈呈	卒業記念品として、 証書狭み、南部鉄製鍵形栓抜き 校友会と共催	平成4年3月 卒業式
クラス会 開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助 金として5,000円を支給 (他に、校友会より10,000円と、 往復ハガキ、学校法人より5,000円 が支給される)	随 時
準会員活動 の奨励	電高祭優秀展示作品の奨励 クラブ活動、文化活動の奨励	平成3年 9月27日
準会員活動 援助	体育祭、文化講演会、クラブ活動 等の活動援助 (校友会準会員事業基金の運用)	平成3年 9月25日
第6回卒業 生招待会の 協力	卒業生招待会(ホームカミング) の協力	平成3年 11月2日
募金活動の 推進	小金井校舎建設募金活動の推進 取組み	随 時

高 等 学 校

名誉会長 宮 崎 登
会 長 大 塚 忠 克
副 会 長 須 賀 寛 光
" 向 芝 京 太
会 計 内 山 章 夫

平成3・4年度役員

職 務	氏 名	卒年	居住地
幹 事	佐々嶋 治	17	北 区
"	池谷 道	20	市 川 市
"	清水 岩	20	世 田 谷 区
"	海老原 宮	23	浦 和 市
"	中村 広	24	市 川 市
"	北風 康	29	市 川 区
"	間川 清	29	大 塚 市
"	見崎 正	35	飯 能 市
"	萩原 宏	35	川 口 市
"	石串 幸	37	江 戸 川 区
"	小渡 林	39	大 田 区
"	須賀 敏	48	北 葛 市
"	山賀 寛	49	越 谷 市
"	河野 孝	49	町 田 市
"	内山 吉	53	大 宮 市
"	池田 秀	54	船 橋 市
"	海老原 万	54	中 央 区
会計監査	加 藤 栄 治	30	川 越 市

平成3年度決算報告 自 平成3年4月1日 至 平成4年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金 3600円×517名	1,861,200	事 業 費	1,750,476
補 助 金	500,000	総 会 費	528,059
利子・配当金	356,687	教職員・クラス委員懇談会費	159,218
雑 収 入	70,000	ク ラ ス 会 補 助 金	190,000
		卒 業 記 念 品 費	192,941
		同窓会誌製作発行費	640,258
		新クラス委員懇談会費	0
		準会員活動奨励費	40,000
		会 議 費	201,573
		事 務 通 信 費	51,374
		諸 費	192,736
		予 備 費	295,301
小 計	2,787,887	小 計	2,491,460
前 期 繰 越 金	300,242	次 期 繰 越 金	596,669
合 計	3,088,129	合 計	3,088,129

平成4年度特別事業予算案

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
東京電力社債	5,000,000	小金井新校舎移転寄贈品	5,000,000

活動報告

平成4年度事業計画

同 窓 会 役 員

参与 鷲 見 篤 23年卒
" 谷 沢 正一郎 23 "
" 野 瀬 健 一 27 "
" 加 藤 康太郎 29 "
" 賀 張 雅 弘 31 "

平成4・5年度役員

職 務	氏 名	卒年	居住地
幹 事	豊 田 健 造	18	小 平 市
"	野 口 成 治	18	千 葉 市
"	阿久津 功	23	市 川 市
"	鈴 木 治 郎	24	新 座 市
"	宇野 敬 助	27	柏 市
"	柴 山 茂 男	30	横 浜 市
"	小長谷 登	31	横 浜 市
"	松 下 祐 輔	34	横 浜 市
"	日比野 靖 昌	36	文 京 区
"	大塚 忠 克	39	浦 安 市
"	渡辺 喜 弘	39	藤 沢 市
"	北尾 平 弘	40	相 模 原 市
"	印 宮 登 太	41	江 戸 川 区
"	向芝 京 修	48	新 座 市
"	古野 仁 一	49	越 谷 市
"	平 城 木 元 樹	50	稲 城 市
"	鈴 木 節 太 郎	54	市 川 市
"	白 川 裕	33	目 黒 区
会計監査	横 山 真 一	27	船 橋 市

平成4年度予算 自 平成4年4月1日 至 平成5年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金	1,918,800	事 業 費	1,880,000
3600円×533名		総 会 費	550,000
補 助 金	50,000	教職員・クラス委員懇談会費	200,000
利子・配当金	10,000	ク ラ ス 会 補 助	200,000
雑 収 入	100,000	入 学 ・ 卒 業 記 念 品 費	200,000
		同 窓 会 誌 製 作 発 行 費	650,000
		新クラス委員懇談会費	10,000
		準 会 員 活 動 奨 励 費	50,000
		会 議 費	350,000
		事 務 通 信 費	100,000
		諸 費	150,000
		予 備 費	215,469
小 計	2,078,800	小 計	2,675,469
前 期 繰 越 金	596,669	次 期 繰 越 金	0
合 計	2,675,469	合 計	2,675,469

財 産 目 録 平成4年3月31日現在

項 目	内 容	金 額
基 本 財 産 (1)	東 京 電 力 社 債	5,000,000
基 本 財 産 (2)	中 期 国 債 フ ァ ン ド	0

事業種別	内 容	日 時
総 会	於：小金井校舎 1. 平成3年度事業報告、決算報 告、会計監査報告の承認 2. 平成4年度事業計画案、予算案 の審議及び承認 3. 役員改選 4. その他 小金井校舎落成記念品の贈呈 小金井校舎建設募金の協力要請 5. 新校舎披露見学および懇親会	平成4年 6月20日(土)
同窓会誌の 発行	同窓会誌「朋友」1992年版の発行 クラス委員名簿改訂版(14)の発行	平成4年度 発行
クラス委員 の委嘱	クラス委員に委嘱状と承諾書の発 送・回収	平成4年5月
教職員・ クラス委員 懇談会	教職員・クラス委員と懇談、 同窓会・高等学校後援会・校友会 への支援要請 小金井校舎建設募金の協力要請	平成4年
新会員 説明会	於：小金井校舎 新会員に高等学校同窓会活動説明	終業式場にて 平成5年3月
新クラス 委員懇談会	新クラス委員となる人と幹事の懇 談会。同窓会活動への協力要請	平成5年3月 終業式後
入学記念品 の贈呈	入学記念品として、ネクタイピン	平成4年4月 入学式
卒業記念品 の贈呈	卒業記念品として 証書狭み	平成5年3月 卒業式
クラス会 開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助 金として5,000円を支給 (他に、校友会より10,000円と、 往復ハガキ、学校法人より5,000 円が支給される)。	随 時
準会員活動 の奨励	電高祭優秀展示作品の奨励 クラブ活動、文化活動の奨励	
準会員活動 援助	体育祭、文化講演会、クラブ活動 等の活動援助 (校友会準会員事業基金の運用)	
第7回卒業 生招待会の 協力	卒業生招待会(ホームカミング) の協力	
募金活動の 推進	小金井校舎建設募金活動の推進 取組み	

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による、校名改称や学科改編等により、複雑なクラスわけとなっております。

現在449のクラスがありますが、今回クラス委員承諾書を返送いただいた方のみ、委員として掲載させていただきました。空欄になっているクラスで、実際に活動されているクラス委員のかたのご一報をお待ちしております。

また、クラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力御願ひ致します。

なお、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。クラス委員は、各クラスの代表としてクラスと高校同窓会・校友会・高等学校とのパイプ役をお願いしております。委員の方には大きな負担をおかけしていますが、委員の同窓会活動では大変重要な役目です。会員の皆様方も御協力よろしく御願ひ致します。

【凡 例】

18	清水 明	・上段 クラス担任
	豊田 健造	・下段 クラス委員

卒業 年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校			
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科		第2本科	併設中学
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	機械科	
	E	M	E	J	E	M	M	J
S 17			稲垣 忠雄					
18			堤 良富					
			清水 明					
			豊田 健造					
19								
20	清水 明		清水 明					
			池ヶ谷道夫					
21	清野 明夫		作道 兵次					
	倉持 悦久		白石 哲					
22			服部 三郎			加藤 高治		
			栗屋 昭					
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉 原口 喜八 深海登世 金森	早川 喜知	伊藤 克己	
	青木 仁		蛭間 恵治			清水 清		
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		原口 喜八	首藤 富家		
	中田 勇		鈴木 治郎					

卒業 年次	定 時 制						卒業 年次	定 時 制		
	電 気 科	機 械 科	電 気 科					電 気 科	電 子 科	
			電力 課 程		電 氣 機 器 課 程	電 氣 通 信 課 程				
			E ₁	E ₂						M
S 24	吉田 宇一	伊藤 克己					S 42	横 将	山崎 修快	鈴木 治郎
		横山 実								
25			服部 三郎	吉田 宇一			43	高久 広毅	人見 芳行	鈴木 治郎
				鈴木 治郎				加賀 勉		
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	44	鈴木 治郎		人見 芳行
27			横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	45	鈴木 治郎		鈴木 治郎
								金子 英司		
28			河部 貞夫		首藤 富家	森田 恒久	46	鈴木 治郎		鈴木 治郎
29			鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫				
30			河部 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫				
			宮田 利一							
31			小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫				
32			河部 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫				
			茂木 実							
33			小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫				
			亀山 孝							
34			角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫				
35			角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫				
36			桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫				
						富山 晃宏				
37			杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎				
			石崎 泰司							
38			杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男				
						中山 勇次				
39			大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭				
					松枝 速雄	坂本 寛				
40			吉田 宇一		下崎 和彦	松岡 三夫				
41			見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一				
			小室 泰之							

卒業 年次	全 日 制								
	電 気 科								
	電 力 課 程			電 気 機 器 課 程		電 気 通 信 課 程		電 気 計 測 課 程	
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I
S	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫		
25	中田 勇				服部 僕美		森山 満隆		
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫		
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢 (西藤) 実	板垣 光夫	桜井 松治		
28	安藤 和夫	岩田 慶一			今井 昇		野瀬 健一		
29	野口 茂	角田 秀夫			桜井 悌二郎		鈴木 藤男		
30	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢 (西藤) 実		中島 輝夫		伊藤 克己
31	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治		大江 康男
32		石塚 武夫					柴山 茂男		
33	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見 栄治郎	伊藤 克己
34									小長谷 登
35	角川 一治	桜井 悌二郎			中沢 (西藤) 実		中島 輝夫	寺尾 功吉	佐藤 善慶
36	倉林 純一							柳 博	
37	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田 良次郎	大江 康男
38	飛田 偉晴				後藤 隆夫				
39	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢 (西藤) 実		野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己
40					松下 祐輔			仲野 成憲	
41	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男
42	北村 義明	名古屋 勲						見崎 正行	
43	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井 光太郎	伊藤 克己
44									藤田 安彦
45	野口 茂				斉藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫	石川 孝志
46									
47	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎		伊藤 克己
48	形屋 憲一								
49	中島 輝夫				小針 藤男		高木 正夫	白井 光太郎	渡辺 太
50									渡辺 正行
51	中村 広幸				斉藤 広吉		桜井 松治	菊地 諒	伊藤 克己
52									

卒業 年次	全 日 制								
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科	
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	
S	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇	
41					印宮 登				
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井 光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男	
43	斉藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斉藤 広吉		渡辺 太	
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男	
45		山越 茂雄		花嶋 秀年					
46	宮崎 登	加藤 栄治		白井 光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実		
47	大田 健	中村 広幸		白井 光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己		
48		秋山 清隆							
49	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明		
50	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実		
51	間辺 幸三郎	高橋 源八		白井 光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸		
52	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫			
53					佐藤 仁	高瀬 勝義			
54	宮崎 登	鈴木 博		五十木 基晴	大江 康男	横山 実			
55	間辺 幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	横 将			
56		大塚 徹							
57	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫			
58	後野 明仁				清水 敏久				
59	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実			
60	松岡 三夫	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	横 将			
61	石井 和之	榎原 俊行							
62	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実			
63	斉藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明			
64	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一			
65									
66	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実			
67		亀岡 和裕		大曾根 康史		鈴木 久郎			
68	斉藤 広吉	大田 健		渡辺 太	前嶋 万人	小峯 龍男			
69	深見 孝一								

卒業 年次	全 日 制					
	電 気 科		電 子 科		機 械 科	電子機械科
	E ₁	E ₂	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂
S 61	津村 栄一	鈴木 治郎	見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治	
62	斎藤 広吉	渡辺 太	中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫	
63	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴		小峯 龍男
	村田 周也					佐藤 秀明
H 1	中田 勇	津村 栄一	見崎 正行	内山 章夫		古城 仁
2	鈴木 治郎	妹尾 敬	中村 隆一	上前 隆雄		大久保 靖
	戸塚 敏朗			中島 浩一		
3	大田 健	河野 吉伸	見崎 正行	深谷哲弘		小峯 龍男
	甘利 友明		前田 隆	村社 敏夫		石沢 岳彦
	佐藤 淳		松本 信寛			
4	中田 勇	深川 絃司	内山 章夫	林 幸男		石松栄一郎
	石井 英二	井尻 崇	立脇 竜	岡山 進一		中村 一道
	澤 雅祐	梅沢 康剛	谷 伸彦	両角 祐樹		吉田 康輔

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S 27	青木 成宗				
28	吉田 孝俊				
29	宮本 敏雄				
30	平野 三郎				
31	佐藤 吉弥				
32	大久保芳随				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳随	北原 泰彦			
	鈴木 恭雄	前嶋 万人			
36	神庭 明	大渡 正治			
	相川 祐三				
37	伏見栄次郎	吉田 孝俊			
		藤田 明也			
38	大久保芳随	伏見栄次郎			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊	伏見栄次郎	平野 三郎		
	渡辺 貞綱				
41	大渡 正治	杉野 良知	石川 孝志	大久保芳随	
				松井 努	
42	中島 輝夫	山田 宏明	磯部 昭二	白川 守昭	
43	神庭 明	石川 孝志	板垣 光夫	吉田 孝俊	

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S 44	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳随	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
46	杉野 良知	横 将	板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博
47	大久保芳随	磯部 昭二	斉藤 成信	高久 広毅	
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
50	杉野 良知	磯部 昭二	斉藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
			川島 正春	古城 仁	
51	石川 孝志	則友 克敏	人見 芳行	松岡 三夫	林 幸男
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	斉藤 成信
					遠藤 史郎
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
55	大江 康男	斉藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
56	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
	大館 昭彦				道伝 弘昌
57	大谷 稔	田上 光治	磯部昭二	石川 孝志	板垣 光夫
58	大江 康男	石井 和之	高村 広昭	横 将	松岡 三夫
59	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
60	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
			京極 政宏		

卒業 年次	全 通 科						
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇
S 61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	横 将	吉場 章二	飯島 稔	
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広毅	齋藤 成信	平山 桂樹		
		佐々木 徹					
63	山崎 晴康	人見 芳行	高村 広昭	石川 孝志	山田 宏明	大谷 稔	
			斎藤 貴治				
H 1	中村 圭佑	林 幸男	田上 光治	向芝 京太	吉場 章二	飯島 稔	
		中西 勇人		青木 健			
2	白川 守昭	山崎 武光	高久 広毅	宮本 治	生熊 勝彦	川口 純	平山 桂樹
	佐伯裕次郎			青木 義幸 中山 博			
3	斎藤 成信	人見 芳行	高村 広昭	八百屋尚志	則友 克敏	山崎 晴康	
	和田 崇秀					藤井 宣彰	
4	中村 圭佑	黒沼 康広	横 将	田上 光治	向芝 京太	山崎 武光	飯島 稔
	横田 智寛 山口 潤	長澤 吉田	将章 浩康	五十嵐哲哉 仁平 雅実	田沼 玲男 土屋 正明	戸部 拓也 矢古宇 卓	向後 隆彦 中村 真也

東京電機大学高等学校同窓会会則

- 第1章 名称および事務所所在地
- 第1条 本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。
- 第2条 本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町1-4東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井市梶野町4-8-1東京電機大学高等学校内に置く。
- 第2章 目的
- 第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員の母校との連絡を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。
- 第3章 会 員
- 第4条 本会の会員は正会員、準会員、特別会員よりなる。
- 2 正会員は東京電機大学高等学校、東京電機工業高校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。
- 3 準会員は東京電機大学高等学校の在校生とする。
- 4 特別会員は東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。
- 第5条 準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。
- 第4章 役 員
- 第6条 本会には次の役員を置く。
- 一 名誉会長1名
- 二 顧問および参与若干名
- 三 幹事25名以上50名以内（うち、会長1名、副会長2名、会計、庶務各若干名を含む）会計監査2名
- 四 クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名を置くことができる。
- 第7条 名誉会長、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べることができる。
- 2 会長は本会を代表し、会務を総括し、幹事会の議長となる。
- 3 副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 4 会計は本会の会計を担当する。
- 5 庶務は本会の庶務を担当する。
- 6 幹事は会務を分担し、会の運営に当たる。
- 7 地域委員は地域同窓会を、クラス委員はクラス会を開催し、会との連絡を緊密にし、会の発展を図る。
- 第8条 会長、副会長の任期は2ヶ年とし再選を妨げない。
- 2 幹事および会計監査の任期は2ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。
- 3 前1項および2項以外の役員の任期は1ヶ年とし再任を妨げない。
- 4 役員に欠員を生じ、会の運営に支障あるときは補充することができる。但し任期は前任者の残任期間とする。
- 第5章 会 合
- 第9条 総会は毎年1回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決をおこなう。
- 第10条 幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。
- 2 クラス委員会、地域委員会は、それぞれクラス会、および地域同窓会の要望事項を協議し、幹事会に提案する。
- 3 クラス会、地域同窓会およびその他の会は随時に開催できる。
- 各会を開催した場合は会長に結果を報告する。
- 第11条 幹事会の議決は出席人員の過半数の賛成を必要とする。
- 第12条 本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。

第6章 会費および会計

第13条 本会に入会するものは会費を納入するものと
する。

2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を
以てこれを認める。

第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収する
ことができる。

第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌
年3月末日に終わる。

第7章 会則の改正その他

第17条 本会則の改正は総会の議決を要する。

第18条 本会の運営上必要と認めるときは細則を設け
ることができる。

付 則

1 本会則は昭和35年4月17日より施行する。

2 昭和46年 5月15日第6条四項一部改正

昭和47年 6月27日第6条一項一部改正

昭和50年 6月 7日第13条一項一部改正

昭和56年 6月27日全面改正

昭和57年 6月26日第13条一項一部改正

昭和60年 6月22日一部改正

平成4年 6月20日全面改正

東京電機大学高等学校 同窓会会則細則

第1条 名誉会長には東京電機大学高等学校長を推戴
する。

2 顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦す
る。

3 参与は会長（旧会則による幹事長を含む）の
経歴のあるもの、または幹事（旧会則による
常任幹事を含む）の経歴のあるもので幹事会
の承認を得たもの。

4 会長および副会長は幹事会の互選で定める。

5 会計および庶務は幹事会の互選で定める。

6 クラス委員はクラス会より選出する。

7 地域委員は地域同窓会より選出する。

8 会則第12条による委員会の委員は幹事会の
推薦により定める。

第2条 本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に
定めるところによる。

第3条 本細則の改正は幹事会の議決を要する。

付 則

1 本細則は昭和35年4月17日より実施する。

2 昭和56年6月27日全面改正

3 昭和60年6月22日全面改正

4 平成4年6月20日全面改正

編 集 後 記

昨年度の朋友では、新校舎についてご紹介しました。今年は、移転を機に大きく変わった学校行事の中から文化祭について特集を組んでみました。授業内容は忘れても、文化祭のことだけは・・・というOBの方々も多いのではないのでしょうか。当時と比較していかがだったでしょう。

これからの未来を決めて行く第一歩を踏み出した高等学校、先輩諸氏の今後のご助力をお願いいたします。

[編集担当] 向芝京太・古城 仁・内山章夫

河野吉伸・串橋幸保

平成5年2月25日発行（非売品）

[編集兼発行所]

東京電機大学高等学校同窓会

住所：東京都千代田区神田錦町1の4

東京電機大学校友会内

電話：03-5280-3512

東京電機大学高等学校

住所：東京都小金井市梶野町4-8-1

電話：0422(37)6441(代)